

## 説教

2013.7.28

### 主の祈り

ルカ福音書 11 章 1-13 節

主の祈りは福音書の中で唯一イエスが教えてくれた祈りとされていて、キリスト教の祈りの中でも特別な祈りとされ、古来から大切にされています。

わたしたちも主の祈りを礼拝で祈りますが、礼拝の中で、ほかにどんな祈りを祈っているか説明します。

- 1) 入祭唱：これはイントロにあたります。礼拝を始める導入として聖書箇所を用いて唱えます。
- 2) 懺悔と赦しの祈り：礼拝とは神のみ前に出ることですから、罪を告白して赦しを求めることはあたりまえです。わたしたちは礼拝の開始直後この祈りを祈ります。ただ、懺悔ということばの響きに抵抗があるようで礼拝でこの祈りを省略する教会もおおいようです。確かにほんとうに罪をおかしていると自覚していると声にだせないこともあるでしょう。そんなときは心の中で唱えましょう。
- 3) あわれみの賛歌（キリエ）：キリエ・エレイソンは「主よ憐れみたまえ」という意味のギリシア語から来ています。キリエは東方教会の

「主イエス・ハリストス、神の子よ、我、罪人を憐れみ給え」

(イエスの祈り)

の短縮版といわれています。続くクリステ・エレイソンは「キリストよ憐れみたまえ」という意味になります。

3) 大栄光の歌（グロリア）：神の栄光を称える賛歌です。冒頭はルカ福音書 2:14 の

いと高きところには栄光、神にあれ、  
地には平和、御心に適う人にあれ。

から取られています。グロリアはラテン語で「栄光」の意味です。キリエと同じくこれも起源は東方教会にあります。

4) 集会祈願：当日の聖書朗読箇所に関連した礼拝用の祈禱です。せかんどチャーチでは主日だけではなく一週間をとおして週日の祈りにも使用しています。

5) 信仰告白（ラテン語ではクレドといいます）使徒信条を唱えます。

6) 共同祈願：信者のための祈りです。式文では共通の祈りを掲載しています。自分自身に必要な祈りを追加して祈りましょう。

7) 感謝の賛歌（サンクトゥス）：神への感謝を捧げ、その栄光を称える賛歌です。サンクトゥスとはラテン語で「聖なる」という意味です。

8) 奉献文：パンとワインの聖別（きよめ）の祈り

9) 記念唱：聖餐のための祈り

10) 主の祈り

11) 平和の賛歌（アニュス・デイ）：

平和を祈る賛歌、ヨハネ福音書 1:29 に基づいています。

その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。

12) 拝領唱：パンとワインをいただく前に唱える、聖句を使っています。

13) 感謝祈願：礼拝できたことへの感謝の祈り。礼拝の締めです。

14) 祝祷：祝福の祈りです。

15) 派遣の唱和：礼拝のエンディングの祈りで定形のもので。

キリスト教徒は礼拝のあと世間に派遣されて福音を宣べ伝えることが求められています。

このように、わたしたちの礼拝は15種類の祈りを祈り、結果として長いお祈りをしていることになります。

最後に「主の祈り」の短い解説をしておしまいとします。

前半の2つの神に対する祈り、後半の3つわたしたちの祈りで構成されます。十戒の前半の4つが神、後半の6つが人間というわけ方と似ています。

1) 父よ、御名が崇められますように。

2) 御国が来ますように。

-----

3) わたしたちに必要な糧を毎日与えてください。

4) わたしたちの罪を赦してください、わたしたちも自分に負い目のある人を皆赦しますから。

5) わたしたちを誘惑に遭わせないでください。

主の祈りはマタイ福音書にもありルカのもの似ていますが、まったく同じではありません。ルカのほうが古く、より原型に近いといわれています。一方マタイの祈りは礼拝用に形式を整えたものとされて、キリスト教では古くからマタイ型の主の祈りを採用して現在に至ります。

また、前半の2つの祈りはユダヤ教のカディッシュの祈りが原型になっていることが研究であきらかになっています。カディッシュを簡素に短くして、神を父（アッバ）と呼びかけたところがイエスの主の祈りの特にユニークな点です。

意味がわからなければ祈っても意味がない、意味がわからなければ心がこもらない、もっともな意見だと思います。しかし、祈りは祈ってこそ祈りです。少々わからないところがあっても、ぜんぜんピンとこなくても、祈り、礼拝しましょう。気づく日がきつとくるはずですよ。